

延岡市議会政策提言議員協議会の 提言項目に関する検証結果

(令和元年度～令和3年度分)

令和5年2月

延岡市議会政策提言議員協議会会長

延岡市議会議長 本部 仁 俊

【はじめに】

延岡市議会では、「市議会及び市当局が共通の認識のもとに政策を検証する機会を設けることで議会内における政策理解を深め、市議会として市当局の政策立案及び改善に向けた提言を行うこと」を目的として、平成20年に政策提言議員協議会を設置し、市当局に対し様々な政策提言を行ってきました。

これまで提言を行った項目については、その内容や性質により、「施策が講じられ成果を上げているもの」や「実施途中であるもの」、「検討はされているが施策化されていないもの」など様々となっています。

議会としましては、様々な場面で個別の事業の進捗状況の確認等を行っておりますが、今年度は、今任期の実質的な最終年度であることから、今任期中に行った提言（令和元年度から3年度まで）のその後の取組状況等について、改めて検証を行い、その結果を取りまとめました。

過去3年分の提言項目の検証であり、提言時と情勢が変わっている項目や提言から期間が経っていない項目などもありますが、今回の検証結果をもとに、市民目線に立った市政発展のため、さらなる施策推進が図られることを期待しております。

【検証内容及び総括】

令和元年度から令和3年度まで3年間において、6つのテーマにわたる23項目の具体的な提言を行っていますが、それぞれの提言項目について、提言後の取組状況及び現状に関する所管課への調査などを行いながら、議会として進捗状況の評価等を行っています。

なお、進捗状況の評価については、4段階（◎「実施済」、○「実施中」、△「検討中」、×「現時点で実施予定なし」）としており、評価結果とともに議会の対応ということで、今後の取組み等について言及しています。

23項目の進捗状況については、「実施済」が2項目、「実施中」が15項目、「検討中」が6項目となっています。

なお、項目ごとの検証内容については、それぞれ「検証シート」に記載しています。

提言項目一覧

年度	提言項目	進捗 状況	検証 内容
元	1. 小水力発電設備設置推進の取組		
	①小水力発電に関する情報提供及び収集	△	(1)
	②小水力発電設備設置の可能性調査の実施	○	(2)
	③小水力発電設備設置推進に向けた窓口の設置	△	(3)
	2. スポーツ施設の整備		
①国民スポーツ大会を見据えたスポーツ施設等の整備	○	(4)	
②部局横断的な協議の推進	○	(5)	
2	1. 南延岡駅のバリアフリー化		
	①南延岡駅バリアフリー化促進期成会と連携し、南延岡駅利用者の増加に向けた施策を展開するなど、官民一丸となってバリアフリー化に向けた機運醸成を図ること。	○	(6)
	②駅舎建替を含め、市として整備手法を研究するとともに、応分の負担による整備の可能性等、JR側とより踏み込んだ協議を行うこと。なお、整備手法については、パブリックコメントを実施し、広く市民の意見を聴くこと。	○	(7)
	③財源確保に向けた国、県への要望活動を強化すること。	○	(8)
	2. 愛宕山の防犯灯の整備		
①防犯灯が整備可能な場所を選定し、その場所に合った設置手法を決定し、早期整備に努めること。	◎	(9)	
②防犯灯の整備と併せた樹木の伐採を実施し、防犯と景観の向上を図ること。	○	(10)	
3	1. 道路冠水対策の推進		
	①分流式下水道への積極的な整備転換の検討	△	(11)
	②集水柵の増設	◎	(12)
	③透水性舗装の整備の検討	○	(13)
	④側溝の堆積土砂の撤去	○	(14)
	⑤道路冠水地区における避難路マップの作成	○	(15)
	⑥道路冠水想定箇所の通行者に対する注意喚起	○	(16)
	⑦地区住民説明会の開催	△	(17)

2. 道路整備の推進			
①危険箇所へのガードレール設置及び区画線・誘導表示の整備促進	○	(18)	
②通学路における危険箇所への安全対策の加速化	○	(19)	
③点字ブロック及び歩道の損傷箇所の修復の加速化	○	(20)	
④市民からの道路異常等の通報システムの構築	△	(21)	
⑤自転車走行者の安全確保の推進	○	(22)	
⑥事故発生リスクの高い歩道上へのクッションドラム設置	△	(23)	

「◎：実施済」、「○：実施中」、「△：検討中」、「×：現時点で実施予定なし」

検証内容（１）

年 度	令和元年度
提言項目	1. 小水力発電設備設置推進の取組
提言内容	<p>①小水力発電に関する情報提供及び収集</p> <p>再生可能エネルギーの中でも、太陽光発電や風力発電などと比べて、小水力発電についての一般市民の認知度は低い。仕組みや制度についての情報が不足しているため、小水力発電の適地になり得る可能性があるにもかかわらず、地域住民が認識できていないのが現状であることから、小水力発電の仕組みや制度について、地域住民や区などに対して広く情報提供を行うとともに、積極的に情報収集を行い、小水力発電の適地・開発候補地点について把握すること。</p>
提言後の取組及び現状	<p>総合農政課では、土地改良区や水利組合などの農業者組織への国・県からの情報提供を行い、適地候補地の情報収集に努めている。</p> <p>北川総合支所地域振興課・産業建設課では、北川支所管内の小水力発電の可能性については、平成 18 年 2 月に旧北川町において策定した「北川町地域新エネルギービジョン策定等事業報告書」の中で、導入可能と思われる 5 地点（祝子川ダム、落水の滝、香花谷観音滝、森谷観音滝、祝子川砂防ダム）の調査を行っている。</p> <p>その結果、この 5 地点については、小水力発電は可能であるが、いずれも山間部であり、電力量が少ないこと、また電力の消費場所が周辺に無いことから、有効的ではないとの結論に至ったことから、本調査以降、地域住民等への情報提供は行っていない状況である。</p> <p>また、脱炭素政策室では、「地球温暖化対策の推進に関する法律（温対法）」に基づき策定・改定するよう義務付けられた地方公共団体の「実行計画」に、2050 年カーボンニュートラル宣言や温室効果ガスの排出量を 2030 年度に 2013 年度比 46%削減などの目標を盛り込み、温室効果ガスの現状分析や将来推計調査、再生可能エネルギーの導入調査を行い、2050 年の脱炭素実現を見据えた計画の策定を行う予定である。</p> <p>この計画を策定する中で、小水力発電をはじめ太陽光発電など再生可能エネルギー資源の賦存状況や再生可能エネルギーの導入に係る対策・施策について検討することとなる。</p>

進捗状況	△
議会の対応	脱炭素政策を進めていく中で、小水力発電や太陽光発電など再生可能エネルギー資源の導入に係る対策について検討すること。

検証内容（２）

年 度	令和元年度
提言項目	1. 小水力発電設備設置推進の取組
提言内容	<p>②小水力発電設備設置の可能性調査の実施</p> <p>小水力発電は、水の流れ落ちる落差と流量があれば場所は問わず、設置可能面積が小さくても設置が可能である。</p> <p>川の高低差の大きい山間部や農業が盛んで用水路が整備されている地域、また地元からの有用な情報など、把握した開発候補地点において、宮崎県企業局の協力のもと、導入の可能性調査を実施すること。</p>
提言後の取組及び現状	<p>総合農政課では、これまで、北方町の椎畑地区と速日峰地区を候補地として選定し調査を行い、速日峰地区に可能性があるとの結果が出た。今後も地元からの情報をもとに企業局と連携をとり、可能性調査を実施する。</p> <p>北川総合支所地域振興課・産業建設課では、令和3年12月に、宮崎県企業局、生活環境課、北川地域振興課合同で、小水力発電導入の可能性調査の事前調査を行った。本調査では、検証内容（１）の5地点（祝子川ダム、落水の滝、香花谷観音滝、森谷観音滝、祝子川砂防ダム）に加え、祝子川キャンプ場周辺、大崩山登山口周辺河川、深瀬地区細見砂防ダム、宮原用水路の4地点を加え、調査を行ったところである。その結果、祝子川キャンプ場周辺について、可能性調査の実施候補地として、生活環境課より宮崎県企業局に連絡をとっている。</p> <p>生活環境課では、環境省の第1回脱炭素先行地域への応募にあたってのエリア選定、及び脱炭素化に向けた再生可能エネルギーの最大限導入に関する調査の一環として、北方と北川、両ユネスコエコパーク拠点施設整備構想エリア及び一ヶ岡下水処理場について、令和3年12月22日～23日に宮崎県企業局による現地確認に同行し、水の高低差がある候補地を調査したところ、下記の3か所について水量が少ないため経済性は低いものの小水力発電開発の可能性があるとのことであり、宮崎県企業局へ小水力発電開発可能性調査を申し込んだところである。</p> <p>【可能性調査選定地】</p> <p>1. 鹿川キャンプ場 2. 祝子川キャンプ場 3. 一ヶ岡下水処理場</p>
進捗状況	○
議会の対応	<p>速日峰地区、祝子川キャンプ場、鹿川キャンプ場、一ヶ岡下水処理場における可能性調査結果を受け、実施可能となった地区については、導入に向けた検討を早急に行っていくこと。</p>

検証内容（3）

年 度	令和元年度
提言項目	1. 小水力発電設備設置推進の取組
提言内容	<p>③小水力発電設備設置推進に向けた窓口の設置</p> <p>小水力発電を普及させるには、電気事業法や土地改良法などの「法規制」、国・県における各種補助制度や固定価格買取制度（F I T）の動向による「経済性（採算性）」、設置工事における「技術力」、および「地域の理解」など、あらゆる方面からの支援が必要になることから、小水力発電設備設置推進に向けた相談・助言を行う窓口を設けること。</p>
提言後の取組及び現状	<p>総合農政課では、今後も、国・県の動向は農業用水施設の所有者である土地改良区等へ情報提供を行い、連携を図る。</p> <p>脱炭素政策室では、今後策定予定の「地球温暖化対策地方公共団体実行計画」を実行していく中で、小水力発電をはじめ太陽光発電など再生可能エネルギーについての検討も行う予定であり、担当窓口の設置などについてもその中で検討することになるが、延岡市全体の現状、導入状況などを把握する必要があるため、情報提供を含め脱炭素政策室が窓口となり延岡市のカーボンニュートラル実現を目指す。</p> <p>企画課では、農業用水利施設以外の水資源を活用するケースについては、エネルギーに関する事務を所管する課として相談・助言の窓口として対応する。</p>
進捗状況	△
議会の対応	<p>窓口となる担当課室が複数にまたがっていることから、各課室が綿密に連携して相談者等のサポートに努めるとともに、将来的には相談・助言を一元的に行う窓口の設置を検討すること。</p>

検証内容（４）

年 度	令和元年度
提言項目	２．スポーツ施設の整備
提言内容	<p>①国民スポーツ大会を見据えたスポーツ施設等の整備</p> <p>既存スポーツ施設においては、全体的に老朽化が顕著になっており、公式競技施設として十分な整備がなされているとは言えない。また駐車場の収容台数の不足は長年の懸案事項であることは言うまでもない。</p> <p>国民スポーツ大会において本市で開催される競技種目が決まる中、スポーツ施設及び周辺整備においては、市民や各競技関係者からのニーズを十分に聞き取るとともに、受入態勢が早期に整うよう整備すること。</p>
提言後の取組及び現状	<p>令和９年開催の宮崎国民スポーツ大会に向けて、競技会場となっている新宮崎県体育館、西階野球場のほか、これまで本市になかった屋内練習場として「多目的屋内施設」の整備を進めている。整備にあたっては、競技関係者や市民等で組織する「検討会議」での意見交換や各競技団体等との個別の意見交換、市民説明会やパブリックコメントを実施する等、競技関係者や市民の皆様のニーズを伺いながら進めている。</p> <p>また、コロナ感染防止対策も踏まえ、令和２年度から令和３年度にかけて、屋外・屋内スポーツ施設のトイレ洋式化や自動水栓化等の環境整備も実施している。</p> <p>西階公園の駐車場不足の課題については、新設する多目的屋内施設に約１５０台の駐車場を新たに設けるほか、引き続き、勤労青少年ホーム跡地や公園内の市有地の活用等も含めて検討していく。</p> <p>その他の施設については、必要な改修等を行いつつ、国スポ関連の施設整備の進捗状況等を踏まえながら検討していく。</p> <p><近年の主なスポーツ施設の整備状況></p> <p>①新宮崎県体育館 R5年度にサブアリーナが供用開始予定。 ※メインアリーナはR7年度完成予定。</p> <p>②多目的屋内施設 R4年度秋頃に建設工事に着工。R5年度中に完成予定</p> <p>③西階野球場 R4年度に実施設計を実施。R5～R7年度で建設工事を予定</p> <p>④トイレ改修 R2年度 手洗い自動水栓化 39箇所 R3年度 手洗い自動水栓化 36箇所、 小便器自動水栓化 32箇所、大便器洋式化 41箇所</p> <p><延岡市で実施される国スポの正式競技（６競技７種目）></p> <p>オープンウォータースイミング、体操競技、新体操、柔道、バレーボール、軟式野球、ソフトボール</p> <p>※公開競技（２競技） 武術太極拳、パワーリフティング</p>

進捗状況	○
議会の対応	<p>国民スポーツ大会に向けて、今後とも、関係団体や市民の意見を聞きながら、計画的な施設整備を行っていくこと。</p> <p>また、長年の課題となっている西階公園内の駐車場不足についても、市有地の活用を検討するなど、早期解決を図っていくこと。</p>

検証内容（５）

年 度	令和元年度
提言項目	２．スポーツ施設の整備
提言内容	<p>②部局横断的な協議の推進</p> <p>西階運動公園は、「防災拠点」として、また「スポーツ交流拠点」として様々な役割を担っているため、その整備には、「防災」「スポーツ」「公園」「道路」などあらゆる視点が必要である。現在は、それぞれの整備方針のもと、それぞれが単独で協議を行っていることから、西階運動公園の一体的な整備推進を図るため、部局横断的な協議を進めること。</p>
提言後の取組及び現状	<p>県の地域防災計画において、災害時の後方支援拠点施設に位置付けられている西階公園の防災機能の強化等を図るため、保健体育課を中心に各部局の関係課室と協議を重ね、西階公園防災等施設構想を策定し、構想に基づいて現在、災害時の物資拠点と平常時のスポーツ利用を兼ねた多目的屋内施設の整備を進めている。</p> <p>令和９年開催の国民スポーツ大会に向けて、西階野球場の整備を進めるにあたり、保健体育課、国民スポーツ大会準備室、危機管理課、都市計画課、土木課、建築住宅課、建築指導課、上下水道局等の関係各課が連携し、野球場施設だけでなく、危機管理対応、公園利用、道路交通、排水対策等、周辺も含めた西階公園の一体的な整備について、部局横断的な協議を行っている。</p> <p>国の社会資本整備総合交付金を活用するための条件となっている長寿命化計画について、都市計画課と保健体育課で協議を行いながら、西階公園内にある各施設等の整備や更新等について検討を進めている。</p> <p>今後、駐車場確保や規模の大きな大会開催時等の混雑解消、老朽化した施設の対策や周辺市有地の有効活用等についても、引き続き、庁内各課で連携しながら検討する。</p> <p><近年の西階公園整備の主な取組></p> <ul style="list-style-type: none"> ・西階公園防災等施設構想（H30）策定 ・多目的屋内施設基本設計（R2）、実施設計（R3） ※R4年度から建設工事に着手予定 ・西階野球場基本構想（R2）、基本設計（R3） ※R4年度に実施設計に着手済

進捗状況	○
議会の対応	<p>西階運動公園内の整備においては、スポーツ・防災等、様々な観点を考慮する必要がある。今後、多目的屋内施設の建設や国民スポーツ大会に向けた施設整備等を進めていく中で、引き続き、関係部局と綿密に連携し、事業を進めていくこと。</p>

検証内容（6）

年 度	令和2年度
提言項目	1. 南延岡駅のバリアフリー化
提言内容	①南延岡駅バリアフリー化促進期成会と連携し、南延岡駅利用者の増加に向けた施策を展開するなど、官民一丸となってバリアフリー化に向けた機運醸成を図ること。
提言後の取組及び現状	<p>民間の任意団体として南延岡駅バリアフリー化促進期成会（以下「期成会」）が令和2年10月に設立され、駅舎を所有するJR九州に対してバリアフリー化を要望するための署名活動に特化して取り組むにあたり、市で事務局を担い、活動を支援した。</p> <p>構成団体：区長連絡協議会、地域婦人連絡協議会、障害者団体連絡協議会、さんさんクラブ連合会、男女共同参画会議21、商工会議所、観光協会、旭化成(株)、延岡高校PTA、延岡工業高校PTA</p> <p>期成会は、令和3年1月から開始した第1回署名活動と同年6月開始の第2回署名活動を通じ、計41,672筆の署名を集めるに至り、署名活動を通じてバリアフリー化に向けた市民の機運醸成を図ってきた。</p> <p>集められた署名については、期成会としてJR九州への要望活動を行う際に提出予定としているが、再三のコロナ感染症拡大の影響を受けて、要望活動の計画が立てられず、現在に至っている。</p> <p>改正バリアフリー法により、基本方針として1日あたり利用者数が2,000人以上の駅をバリアフリー化していく原則的な基準が示されている中で、その基準に満たない佐伯駅が、南延岡駅よりも少ない利用者数でありながらバリアフリー化を実現している。期成会として同市の取組等を参考とするため、令和4年1月に行政視察を計画したものの、コロナ感染症の拡大により、延期を余儀なくされている。</p> <p>期成会の主たる構成団体である区長連絡協議会会員（期成会会長）の交代があったことなどから、令和4年度の総会を今後開催し、要望活動や行政視察等今年度の取組についても検討を行うこととしている。</p>

進捗状況	○
議会の対応	<p>佐伯市をはじめ、他市の先進事例を調査・研究し、利用者の増加に向けた施策の展開など、バリアフリー化に向けた効果的な取り組みを検討すること。</p> <p>また、バリアフリー化に向けては、全市的に機運醸成を図っていくよう要望する。</p>

検証内容（7）

年 度	令和2年度
提言項目	1. 南延岡駅のバリアフリー化
提言内容	②駅舎建替を含め、市として整備手法を研究するとともに、応分の負担による整備の可能性等、JR側とより踏み込んだ協議を行うこと。なお、整備手法については、パブリックコメントを実施し、広く市民の意見を聴くこと。
提言後の取組及び現状	<p>これまで実施したJR九州への要望活動において、JR九州側からは「南延岡駅は非常に特殊な構造を持つ橋上駅であるから、現在の構造のままエレベーターの設置やホームの拡幅等の改修を行うこととなると、極めて多額の費用がかかる上、技術的にも難しい点多々あることや、駅を平屋構造として再整備するにしても、土地の利用はJR貨物との協議が必要であること等から実現が難しい」との意見を受けている。</p> <p>本市としては、南延岡駅を市の南部エリア最大の交通結節点として位置づけ、その機能を強化することを念頭に、バスルートを駅前回遊型に変更し、それを可能とする駐車場やタクシープール、駐輪場等のゾーニング、県道整備との関係性など、駅前再整備の可能性や実現に向けての課題等を調査・整理するために必要な調査費を令和4年度6月補正で計上したところであり、今後これを突破口として何とか駅舎再整備事業を前進させていきたいと考えている。</p> <p>今後、今年度中に示される上記調査結果を参考にしながら、駅舎のバリアフリー化整備についても効果的で効率的な手法、工法の選定及びその概算事業費の算出も踏まえながらJR九州とも協議、検討を進める。</p> <p>パブリックコメントについては、ある程度の具体的な素案が提示できる段階となった後に、市民に提示して意見募集を行っていく。</p>
進捗状況	○
議会の対応	<p>今年度の調査結果を踏まえ、より効率的かつ効果的な手法や工法等をJR九州と協議するとともに、駅舎のバリアフリー化等の必要性をあらためて要望すること。</p> <p>また、パブリックコメントの実施の際は、より多くの意見が提出されるよう十分な周知を行うこと。</p>

検証内容（８）

年 度	令和２年度
提言項目	1. 南延岡駅のバリアフリー化
提言内容	③財源確保に向けた国、県への要望活動を強化すること。
提言後の取組 及び現状	<p>駅舎のバリアフリー化については、国の支援制度「地域公共交通バリア解消促進等事業」の補助要綱に沿って進める必要があり、補助要綱によると、駅舎整備の事業費に係る負担割合については、国が1／3を、運行事業者（JR九州）が1／3を、地元自治体（県及び市）が1／3を負担することが定められている。</p> <p>これまで、宮崎県鉄道整備促進期成同盟会や大分・宮崎県境5市政協協議会、大分・宮崎県境地域開発促進協議会等の活動を通じて、JR九州に対する駅舎のバリアフリー化について要望活動を継続してきた。</p> <p>また、国や県に対しても、これまで財政負担の要望を行ってきた。</p> <p>今後、バリアフリー化実現のため、国県に対する要望もさらに強化していく。</p>
進捗状況	○
議会の対応	引き続き期成会等の活動を通じて、JR九州に駅舎のバリアフリー化の要望を行うとともに、国県に対する要望活動についても強化を図ること。

検証内容（9）

年 度	令和2年度
提言項目	2. 愛宕山の防犯灯の整備
提言内容	①防犯灯が整備可能な場所を選定し、その場所に合った設置手法を決定し、早期整備に努めること。
提言後の取組 及び現状	<p>令和3年8月10日に、市道愛宕山公園線の曲線部8箇所及び市道愛宕神社下通線の曲線部1箇所にLED街灯の設置を完了した。</p> <p>設置手法は、電柱共架式のLED街灯を採用し、既設電柱に設置した。既設電柱を有効的に利用することで電源を容易に確保するとともに、単独柱設置と比較して事業費の縮減も図られ、道路の安全性も向上した。</p> <p>9灯 C=264,000円</p>
進捗状況	◎
議会の対応	<p>当局の積極的な取り組みを評価する。今後とも適切な防犯対策に努めるよう要望する。</p>

検証内容（10）

年 度	令和2年度
提言項目	2. 愛宕山の防犯灯の整備
提言内容	②防犯灯の整備と併せた樹木の伐採を実施し、防犯と景観の向上を図ること。
提言後の取組及び現状	<p>令和2年11月17日に市道愛宕山公園線登り口から展望台までの通行に支障となる範囲の剪定を実施したが、令和3年、令和4年度については災害による倒木の撤去のみで、路線内に支障となる樹木はなかった。</p> <p>当該路線沿いには、個人が所有する土地や愛宕神社用地の樹木があり、これらは所有者の承諾無しに、通行の支障になる範囲以外の剪定を道路管理者が行うことは出来ない。</p> <p>今後も当該路線内で、樹木が通行や防犯、景観の向上を図る際に支障となる場合は、個人所有者や愛宕神社との協議を進めながら剪定を実施していく。</p>
進捗状況	○
議会の対応	今後とも適宜、樹木の剪定を実施し、防犯及び景観の向上を図っていくこと。

検証内容（11）

年 度	令和3年度
提言項目	1. 道路冠水対策の推進
提言内容	<p>①分流式下水道への積極的な整備転換の検討</p> <p>豪雨時のオーバーフロー及び河川への未処理汚水の放流を防ぐため、合流式下水道から分流式下水道への積極的な整備転換を検討すること。</p>
提言後の取組及び現状	<p>合流地区全体の分流式下水道への転換は、新たな下水道管や排水施設等の整備、各家庭の雨汚水分離など解決すべき課題が多くあり、多大な工事費用と期間を要することから現状では実現は非常に難しいと判断している。</p> <p>現在、策定中の「雨水管理総合計画」において、合流式下水道区域内の冠水常襲地区対策手法の一つとして、区域や路線を限定した部分的な分流式下水道での対策が出来ないか調査・検討を進めている。</p>
進捗状況	△
議会の対応	<p>区域や路線を限定した部分的な分流式下水道での対策について、調査・検討を進めるとともに、その結果や結果を踏まえた今後の方針を示すこと。</p>

検証内容（12）

年 度	令和3年度
提言項目	1. 道路冠水対策の推進
提言内容	<p>②集水柵の増設 集水柵の増設により集水機能と排水機能の強化を図ること。</p>
提言後の取組 及び現状	<p>令和3年度9月補正予算を皮切りに「冠水常襲地区対策調査事業」をスタートさせ、現在冠水が常習的に起きている地区における対策を個々の実情に応じて検討し実施している。</p> <p>その中で、集水柵の増設が効果的であると考えられる地区については、積極的に対応していく。</p> <p>なお、例えば栄町では既に集水柵の増設を行ったところであり、今後も必要な箇所については増設を検討していく。</p>
進捗状況	◎
議会の対応	<p>当局の積極的な取り組みを評価する。今後とも集水柵の増設が必要な箇所については、増設を要望する。</p>

検証内容（13）

年 度	令和3年度
提言項目	1. 道路冠水対策の推進
提言内容	<p>③透水性舗装の整備の検討</p> <p>雨水の地下浸透により、路面への雨水滞留防止効果及び排水路への負荷軽減効果が見込める透水性舗装の整備を検討すること。</p> <p>なお、整備にあたっては、耐久性の高い舗装材を使用し、損傷の認められる既存の整備箇所については、積極的な修復に努めること。</p>
提言後の取組及び現状	<p>透水性舗装については、これまでも日の出通線や東出北通線のように、歩道部を舗装する際に採用し整備を進めている。</p> <p>歩道の車両の乗入部については、強度が必要となるので一般的な舗装の密粒度を採用し、それ以外の強度を必要としない部分については、歩行者が通行する場所なので、雨水を路盤に浸透させ、水溜りが発生することを防ぐ目的として開粒度の舗装材を使用している。</p> <p>今後も歩道部の整備には透水性舗装を採用し、雨水滞留防止効果及び排水路への負荷軽減効果を図っていくが、車道部についても、耐久性や維持管理コスト面などを考慮しながら採用できるように検討していく。</p>
進捗状況	○
議会の対応	<p>これまでの実績を踏まえ、歩道整備にあたっては、透水性舗装の採用を積極的に検討していくこと。</p> <p>また、車道部についても、透水性舗装の採用の可能性を引き続き検討していくこと。</p>

検証内容（14）

年 度	令和3年度
提言項目	1. 道路冠水対策の推進
提言内容	<p>④側溝の堆積土砂の撤去</p> <p>（1）側溝の流下能力を確保するため、毎年必要な予算を計上し、計画的な堆積土砂の撤去を行うこと。</p> <p>（2）地域における冠水対策の推進と豪雨災害に対する市民意識の高揚を図るため、地区等が実施する土砂撤去作業等に対する奨励事業の創設を検討すること。</p>
提言後の取組及び現状	<p>（1）側溝の土砂撤去に関しては、平成30年度予算と比較し、令和元年度から令和4年度は、約1.3倍に予算を増額して対応している。</p> <p>冠水が多発している路線については、梅雨前の5月中旬までに現地調査を行い、必要に応じて土砂撤去を行った。</p> <p>日常のパトロールや、市民からの情報提供を基に、側溝の土砂堆積が原因で発生する道路冠水の減少を図るため、今後とも迅速に対応していく。</p> <p>（2）土砂撤去作業は、奨励事業を定めている除草作業のような単純作業ではなく、それぞれの路線により、側溝の大きさや土砂の堆積量も違うため、一定の基準を設けることが非常に困難であり、実際に奨励事業を設けている自治体は県内ではまだない状況である。</p> <p>そのような課題はあるが、効果的かつ実現可能な方はないか等について、引き続き検討していく。</p>
進捗状況	○
議会の対応	<p>側溝の土砂撤去の予算の増額や早急な現地調査について、評価する。引き続き、迅速な対応を要望する。</p> <p>奨励事業についても、県内に限らず全国の事例を調査しながら、実現可能性を検討すること。</p>

検証内容（16）

年 度	令和3年度
提言項目	1. 道路冠水対策の推進
提言内容	<p>⑥道路冠水想定箇所の通行者に対する注意喚起</p> <p>道路冠水想定箇所については、路面へのカラー表示や注意看板、水位表示板の設置などの日常的な注意喚起を行うことにより、冠水時における車両や歩行者の誤進入の防止を図ること。</p>
提言後の取組及び現状	<p>道路冠水想定箇所の通行者に対する注意喚起については、冠水注意の看板の設置を、現在 10 箇所想定しており、その内 1 箇所については、今年度文化センター通線に設置することとしている。残りの 9 箇所については、過去設置に理解を得られない場合も生じているため、地元との協議を行いながら設置していく。</p> <p>また JR の線路をくぐる形になっている市道のアンダーパス（中の瀬・瀬之口）に、道路冠水監視カメラを設置し、職員が現地状況をより詳細に把握できるような体制の整備を整えるため、今年度すでに業務着手中である。</p>
進捗状況	○
議会の対応	<p>注意喚起の看板設置については、地元と丁寧に協議を重ねながら、理解を得るよう努めること。</p>

検証内容（17）

年 度	令和3年度
提言項目	1. 道路冠水対策の推進
提言内容	<p>⑦地区住民説明会の開催</p> <p>冠水常襲地区対策調査事業の調査対象となる地区住民に対し、調査結果に関する説明会を実施すること。</p>
提言後の取組及び現状	<p>令和3年度調査地区について、地元区長や地区住民の方々から現地の状況や要望等について意見をお聞きしながら対策手法の取りまとめを行ったが、新型コロナウイルス感染症予防の観点から調査結果の地元への説明会は現在まで開けていない。</p> <p>今後は、状況をみながら、地元区長と相談し時機を見て、冠水原因や対策について説明会を開催していきたいと考えている。</p> <p>また、令和4年度調査地区についても、今後現地調査、対策案の検討を行っていき、中間取りまとめ時に地元説明会を行い地区住民の方々の意見もお聞きしながら最終的な取りまとめを行う予定としている。</p>
進捗状況	△
議会の対応	<p>新型コロナウイルス感染症の感染状況を踏まえながら、説明会を開催し、地区住民の意見を十分に取り入れること。</p>

検証内容（18）

年 度	令和3年度
提言項目	2. 道路整備の推進
提言内容	<p>①危険箇所へのガードレール設置及び区画線・誘導表示の整備促進</p> <p>危険箇所へのガードレール設置及び区画線・誘導表示の整備については、県から交付される交通安全対策特別交付金に加えて、必要な事業費を確保することにより、整備促進に努めること。</p>
提言後の取組及び現状	<p>ガードレールや区画線などの交通安全施設整備については、日常のパトロールや市民からの情報を基に、緊急性や危険度などの優先順位を検討し、順次整備を行っている。</p> <p>また、毎年開催される通学路合同点検で確認された要望については、特に迅速な対応が必要と考え、令和3年度については補正予算を計上し年度内完成を図ったところである。</p> <p>令和4年度から3か年を目安に交通安全対策特別交付金とは別に道路維持補修事業において、必要な予算を確保し対応しているところである。</p>
進捗状況	○
議会の対応	<p>交通安全対策特別交付金や道路維持補修事業において、危険箇所に対する必要な整備を迅速に行うよう要望する。</p>

検証内容（19）

年 度	令和3年度
提言項目	2. 道路整備の推進
提言内容	<p>②通学路における危険箇所への安全対策の加速化</p> <p>登下校時の児童・生徒の安全を確保するため、通学路点検安全確保緊急対策事業費を増額し、通学路における危険箇所への安全対策を一層加速させること。</p>
提言後の取組 及び現状	<p>毎年通学路における関係機関との合同点検を行うことで、通学路の危険箇所を抽出し、県から交付されている「交通安全対策特別交付金」等により交通安全対策を年次的に実施している。</p> <p>令和4年度は、重点的に安全対策に取り組むため、交通安全対策特別交付金事業とは別に予算を確保し、令和4年度から3か年を目安に、維持補修事業において安全施設の整備を実施する。</p> <p>次年度以降についても、安全を確保するため必要な予算の確保に努めていく。</p>
進捗状況	○
議会の対応	<p>交通安全対策特別交付金や道路維持補修事業等、必要な予算を確保し、通学路における危険箇所への対策を迅速に行うよう要望する。</p>

検証内容（20）

年 度	令和3年度
提言項目	2. 道路整備の推進
提言内容	<p>③点字ブロック及び歩道の損傷箇所の修復の加速化</p> <p>視覚障がい者はもとより、市民の安全と命を守るため、道路維持補修事業費を増額し、点字ブロックの損傷箇所及び草木の繁茂や劣化による歩道の損傷箇所について、修復を加速化させること。</p>
提言後の取組及び現状	<p>点字ブロックの損傷箇所については、市内に31路線あるうちの4路線を補修計画に基づき整備しているところである。</p> <p>令和4年度施工予定路線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本小路通線 C=1,400千円 L=111m ・旭古城線 C=1,200千円 L=81m ・中町通線 C=100千円 L=10m ・亀井通線 C=1,400千円 L=112m <p>その他の路線は、全体的な補修計画が必要なほどの損傷は見られないので、必要に応じて部分的な補修を行っていく。</p> <p>草木の繁茂や劣化による歩道の損傷箇所については、例年より多くの予算を確保していることから、引き続き迅速に修復を実施していく。</p>
進捗状況	○
議会の対応	<p>今年度施工予定路線については、迅速な整備を要望する。</p> <p>その他の路線や草木の繁茂・劣化による歩道の損傷箇所についても、迅速に対応するよう要望する。</p>

検証内容（21）

年 度	令和3年度
提言項目	2. 道路整備の推進
提言内容	④市民からの道路異常等の通報システムの構築 無料通信アプリ LINE を活用した市民からの道路異常等の通報システムを構築し、効率的な情報把握と迅速な対応に努めること。
提言後の取組 及び現状	<p>この度、国のデジタル田園都市国家構想推進交付金の対策事業として、本市の「市民参加型 GIS クラウドサービス構築事業」が採択されたが、その事業に「双方向型のシステム」を整備するとの考え方があり、実際に現在、市民からの通報が可能となり、その内容を反映させるシステム等の構築を行うにあたり、現在、公募型プロポーザルにて業者選定を行っている。</p> <p>今後、このシステムを道路異常等の通報に利用できるよう、検討していく予定である。</p>
進捗状況	△
議会の対応	市民参加型 GIS クラウドサービス構築事業における通報システムの構築を早急に検討していくこと。

検証内容（22）

年 度	令和3年度
提言項目	2. 道路整備の推進
提言内容	<p>⑤自転車走行者の安全確保の推進</p> <p>自転車走行者の安全を確保するため、歩道上の段差及び歩道と車道間の段差解消を図るとともに、自転車が走行しても歩行者の安全が確保できる歩道については、積極的に「自転車通行可」の道路標識を設置するよう、道路管理者や公安委員会に働きかけること。</p>
提言後の取組及び現状	<p>歩道上の段差及び歩道と車道間の段差については、社会資本整備総合交付金を活用し、通学路交通安全プログラムに基づく通学路の整備として、令和3年度は三須小野線、伊形通線、東出北通線の歩道整備を実施し、伊形通線の整備が完了した。</p> <p>また、令和4年度は継続路線で三須小野線、東出北通線を整備しており、さらに、新規路線として西階通線の測量設計を実施中である。</p> <p>なお、標識の設置については、今後、関係機関と協議して検討していく。</p>
進捗状況	○
議会の対応	<p>継続路線を早期に整備するとともに、新規路線についても、早期整備に着手すること。</p> <p>また、標識の設置についても、関係機関との協議を早急に進めていくこと。</p>

検証内容（23）

年 度	令和3年度
提言項目	2. 道路整備の推進
提言内容	<p>⑥事故発生リスクの高い歩道上へのクッションドラム設置</p> <p>歩行者の安全確保とドライバーへの注意喚起を促すため、事故発生リスクの高い歩道上の待機場所について、クッションドラムの設置を検討すること。</p>
提言後の取組及び現状	<p>クッションドラムは、設計速度の速い高速道路や主要道路の分岐点などに、車両の衝突時の衝撃を和らげる目的で設置するものであり、歩行者の安全を確保するものではないが、視認性を高める必要があるところには、クッションドラムを含めた安全対策の設置を今後も検討していく。</p> <p>また交差点部において、ガードレールでは子供達がドライバーから見えづらくなる問題があるため、対策を講じることができなかったが、令和3年3月に日本道路協会より、防護柵の指針の改正が示され、交差点の開口部に「ポロード」と呼ばれる柱状の駒止めを設置することで、車両が歩道へ進入し、第三者の人的被害の発生を防ぐことが可能となった。</p> <p>この改正された防護柵の指針に基づき、本年度より必要な箇所にはポロードを設置するなどの交通安全対策を実施していく。</p>
進捗状況	△
議会の対応	<p>クッションドラムの設置や自動車の運転時に視覚的に減速を促すような標示等、様々な安全対策の手法を検討するとともに、改正された防護柵の指針に基づき、通学路など特に必要な箇所への交通安全対策を早急に実施するよう要望する。</p>